氏名　御栗　一智

【課題】「現在の区行政の課題と、その解決策について」

「大阪の成長戦略」と「市政改革プラン 3.0」、「大阪市こども・子育て支援計画（第 2 期）」を精読し、私が居住している阿倍野区と職場がある西区の将来ビジョンや区運営方針、モニターアンケートを読み、29 年間、大阪市民として暮らしてきた経験、大阪を基盤とする複数の業種の民間企業と小学校での教育公務員としての勤務経験を振り返って、次の三つの課題を挙げ、その解決策について述べたいと思う。

〇課題〔1〕.「安全・安心なまちづくりに向けた地域コミュニティの活性化」について

学校長として学校経営を行うことになってから、地域（地域活動協議会やボランティア等）の方々や関係機関（区役所や警察署、子ども・子育てセンター等）との接点ができ、数多くの支援をいただいている。それまであまり感じることが無かった地域コミュニティを身近に感じ、その重要性を深く理解することができた。しかしながら、本市に大人になってから移住した者としては居住地の地域活動に参加する機会がなく、現在に至っている。地域を支える人材の確保については、簡単な方策は無いが、子育てに関しては比較的スムーズに各家庭が周辺･地域との接点を取りやすい。「地域での子どもたちの健やかな成長」を目標とする様々な活動により、大多数の子育て世帯を集めることが可能である。学校園のＰＴＡ活動から円滑に地域活動へたくさんの人材が移行できるように地域と保護者が気持ちよく協働・交流する場を工夫を重ねて、設けることが大切である。乳幼児の育児支援や子ども会の活動が充実し、活発な地域は将来的に活力を維持できると考える。

〇課題〔2〕「こども・子育て施策の充実」について

昨年 11 月に「子供の貧困対策に関する大綱」が見直され、学校園は引き続き、地域に開かれた子供の貧困対策のプラットホームとして位置づけられている。今年度より学校における“気づき”を“見える化”して区役所等の支援につなげる「大阪市こどもサポートネット事業」も全区で本格的に展開されることになった。区役所を中心に課題を抱える子どもたちの情報を共有し、教育や保健福祉における有効な支援をしっかりと行いたい。

また、学校現場ではとにかく質、量ともに人材が不足している。区単位で支援を行う人材を補充し、多忙を極める教員をサポートして、教材研究や児童理解、教育相談等をより時間をかけて丁寧に行えるように学校園に時間的な余裕を持たせることを行いたい。

現在、学校長を務める小学校で 2 クラスの通級指導教室（他校 30 校・70 名の児童が在籍）を運営している。特別支援教育の更なる充実と共に課題を抱える子どもたちに多様な学びの場を提供する一手段として、(※) 通級指導教室を活性化させることが有効である。

（※）吃音等のことば・学習面・感情コントロール等に課題がある通常学級在籍の児童が週に数時間通う教室。他校からも児童が放課後に保護者の引率で通学し、個別もしくはグループで指導を行う。市内 17 校（小学校 14 校、中学校 3 校）に設置済み。

○課題〔3〕「区民から信頼される区役所づくり」について

言い尽くされてきたことではあるが、日本社会の縦割りによる弊害は区役所の組織においても間違いなく、存在している。専門性が高くなればなるほど、縦割り側の力が強くなり、横ぐしを刺す仕組みを作っても縦割り側が拒否権を持ったままだと何も変わらない。区長自身が明確なメッセージを出して、行動で示し、丁寧に指導し続けることが必要である。区役所職員数の資料を見ると管理職（係長級以上）が本市全体で３５％を超え、４０％を超えている区役所も存在する。まず、管理職の行動の変革から始めて行きたい。

○最後に

変動性や不確実性、複雑性、曖昧性が絡み合い、情報化やグローバル化といった社会的変化が人間の予測をはるかに超えるスピードで進展する、先を見通せない現在においては、カリスマ的リーダーではなく、地域や組織が持つ力を最大限に引き出す環境を築くことができるリーダーが求められている。（組織の目指すべきビジョンや行動指針を示し、メンバーと課題を共有し、戦略・施策を協働で策定する能力は当然、保有しているもの。）

また、自分と違う文化や社会背景を持つ人々の意見をどのようにまとめるか。状況に合わせて柔軟に自分を変えていけるかがリーダーの資質として求められており、銀行、メーカー、コンサルティング会社（コンサルタントが中心の組織）、学校（教員が中心の組織）という文化が全く異なる組織においてリーダーシップを発揮し、実績を挙げてきた経験と知見で貢献したいと思う。